

第28回 世界の教科書展

「マレーシアの教科書」開催にあたって

マレーシア(Malaysia)は、1957年に英領マラヤから独立し、人口約3,318万、ブミプトラ(Bumiputera:土地の子)と呼ばれるイスラームを信奉するマレー系(約65%)、仏教・道教・キリスト教徒などを主とする華人系(約26%)、ヒンドゥー、イスラーム、キリスト教徒などを主とするインド系(約7%)等、50以上の民族から構成される、多民族・多文化・多言語の「複合国家」です。学校制度は、6歳で入学する小学校が6年－前期(下級)中等学校(中学校段階)3年－後期(上級)中等学校(高校段階)2年－「フォーム6(Form6:大学進学希望者の予備課程)」2年－大学3～6年(学部により異なる)、というシステムを採っており、このような教育システムは、かつての宗主国であったイギリスの教育制度の影響を受けています。

1970年代に開始された『ブミプトラ(土地の子)政策』によって、マレー人や先住民族の社会的環境の改善や、民族間の経済格差の是正を図る一方、教育分野においても、マレー語を中心とした国民統合のための施策が導入されました。例えば、小学校段階では、主要な三大民族の言語であるマレー語、中国語、タミル語の各民族別教授言語による学校が併置されていますが、中学校以降はすべて、マレー語を国民共通の「国語」と位置づけた“マレーシア語(Bahasa Malaysia)”によって教授がなされ、中等学校以降の入学・修了資格試験や公的資格試験も、主にマレーシア語によって実施されます。

独立から65年、アジア経済危機やリーマンショック、コロナ禍等を乗り越えて、一層の社会的開発や経済的成長を志向するマレーシアですが、マレー系、華人系、インド系の主要民族の他、数多くの民族が並存している複合社会であるマレーシアは、各民族が互いの差異や多様性を意識し、尊重しつつ、同じマレーシア国民として共生しつつ、さらなる発展を続けていくために、今後、どのような舵取りを行っているか、マレーシアの社会・文化の概説や教育の様子を教科書や各資料を通して感じ取っていただきたいと思います。

今回の展示パネルの解説および教科書翻訳は、本学教育学部・当研究所所長 手嶋将博先生が行いました。

文教大学教育研究所